

日本及びアメリカの市販洗剤の成分と界面活性剤の量

○辻 美智子*、森川 知美*、齊藤 昌子*

(* 共立女子大学)

(目的) 現在、国内外を問わず、様々な衣料用合成洗剤が発売されている。これらの洗剤は、洗濯方法や洗濯機、生活環境また、洗濯される衣類などの違いから、配合されている成分や量が異なっている。さらにこれらの表示形式、表示内容も国によって異なる。

そこで、日本とアメリカの市販洗剤について、界面活性剤の量を定量すると同時に、日本とアメリカにおける洗剤の成分表示、内容の違いを明らかにした。

(方法) 日本の洗剤6種とアメリカの洗剤8種、計14種を用いて、JIS-K-3362法に準じ、エタノール可溶分(%)、石油エーテル可溶分(%)、尿素(%)を測定し、界面活性剤相当分を算出した。また、市販洗剤のパッケージから、両国の組成成分、表示形式の違い等を比較検討した。

(結果) 日本の市販洗剤では、表示されている値と測定値とが、ほぼ一致した。アメリカの洗剤に配合されている界面活性剤の割合は、日本と比べると少ないことが分った。また、日本より非イオン界面活性剤が多く配合されていることが判明した。

日本とアメリカでは、表示項目、表示形式が異なり、洗剤の使用量は、日本では水量に対して示されているのに対し、アメリカでは「1さじ/1回分」とされている。

日米間の洗濯の違いを比較すると、同量の洗濯物を洗浄する際に、アメリカの方が用いる水量、洗剤量ともに日本より多いことが判明した。